

白山さん(白山比咩神社)について



白山さんは

二つの顔を持つ？



“白山比咩大神”がどのような神様なのか？私には、よくわかりません(*^^*)

ただ、その時々、自身の心を映し出す“鏡”

であったのかもしれませんが

白山の麓にあった故郷が、ダム建設予定地となり、
この地に越してきた当初は
“鶴来町”と呼ばれていました(現白山市)
ここへ来ることは、決まっていたのでは？と、今思います

鶴来る町——

“鶴”とは、“天照大神”の象徴であり
私(私の全て)にとっての 希望の光、だからです！

それが白山さんとの、出会い。。

そして、決して変わる事のなかった心願
“いつか、お役に立つ人となりますように——”

どこまでいっても
白山も、菊理媛も、謎のままでしたが
『天の岩戸開き』を知り、Ai先生と出会い、T先生と巡り合い
やっと、ここまで来たような気がします

“ 菊の真意 ”

はるかなる 時を重ねて 受け継がる
やまどの核の 雛形は
黄金に輝く 神魂の 神の誓ひの 菊の型
皇御孫尊

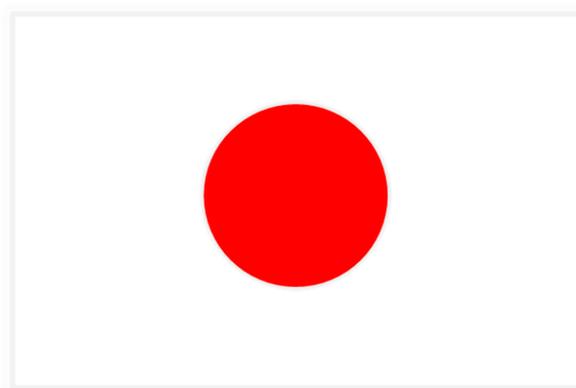
神人の核心である、全き神性の型は
黄金色に輝く皇御親の分御魂、そのものを表す菊のエネルギーである
すべてには、中心となる型が存在し、世の理を担っている
神界の中に燦然と輝く太陽、それが菊の本質である
それが「菊の理」と呼ばれるものである
そしてこれが、皇御親から皇御孫へと、脈々と受け継がれる核心の霊統であり
神人の型を担う者たちの指標であり 目指す座標なのである

私が探していた、“白山菊理媛”に出会うことが出来ました
(*^^*)

新しい宇宙(NMC)の核心、“根源天照皇太神”分身です
NMCの雛形“地球”において、全ての次元を統合し
一なる至高の根源太陽へとつながる道を開いてゆく、“くくり(統合)の神”と感じます
その核心となる働きが“菊の理”^{ことわり} = 根源の究極の愛(の光)によって、
あらゆる全てが創造されていく世界
“菊理”媛 という名前に込められている神意——

白山という“究極の神聖”(純白)の上にか
決して輝くことのない、“根源の燃える、赤き、愛の太陽！！”

“究極の白”の中の、“究極の赤”
美しい日の本の“日の丸” そのまゝの姿ではないでしょうか



白山神社の御祭神は、伊弉諾・伊弉冉命が一般的で
菊理媛は、後から加えられた神ともいわれますが
それが、謎の白山比咩(秘め)大神の仕組みだとしたら？
あらゆる次元・空間を超越した神ならば、可能であると感じます
ここまでくると、地上の人の私には、わけがわからなくなりますが。。。 (笑)

私は歴史学者でも、神道家でもありません
一番大切なものを守りたい！その為に生まれてきました

(*^^*)

2016年になって、父の部屋から一冊の本を見つけました
私がまだ生まれる前、昭和34年に編纂された、分厚い“村史”です
その中に、興味深い昔話がありました

「白山の神様」

泰澄大師が初めて白山を開き
山頂転法輪の窟で、臥・浄定の両行者と共に願行をかけて居られた時、
白山頂上に奉祀すべき神霊のお姿を示現し給え、と窟直下の身振ヶ池に祈請された
その時、池の波間から示現し給うたのは、十二の角を振り立てた
身の毛もよだつ竜の姿であった。
そこで大師は、それは余りに恐ろしいお姿で、衆生済度のお姿ではない、
今一度お姿を変えさせ給えと祈念した。
すると、竜の姿が消えて容姿端麗な、女神のお姿を示現された。
この時大師は、「女人禁制のお山に女神のお姿を奉祀するのは相応しくないから、
今一度お姿を変えさせ給え」と祈れば、
忽ち荘厳で慈悲円満なる十一面観世音菩薩のお姿を現わされた。
これこそ、白山に鎮祭し奉るべきお姿だと、欣喜して渴仰すること数時、
直ちにこれを描きとり、十一面観音の木像を自ら彫刻、これを御前山上に奉祀した。
而して、最初に示現の竜神のお姿は、石の唐櫃に納めて白山比咩神社に奉祀、
次の女神のお姿は、平泉寺にお祀り申し上げた。

神は変幻自在であり、私達人は、自身が観たいものを見ている、
と言われる事が、とてもよくわかります

白山開山の祖、泰澄大師の前に最初に現れたのが、12の角をもつ、恐ろしい竜？

12星座や12支、12時間など、12という数は、
ある一つのまとまりであり、その最高位をあらわしているような気がします

白山神界は、人智を超えた、壮大な世界。。

12の角の龍は、核心(究極の愛)を死守する、究極の龍神(界)なのかもしれません

「平泉寺にお祀り申し上げた」、と記されている女神は

33年に一度御開帳されるという“川上御前”ではないでしょうか？

越前和紙で有名な福井県において、川上御前は和紙の神様、“紙祖神”とされています

生活に困窮する村人を助けるために、紙を漉く技術を教え

「岡太川の川上に住むもの」とだけ言って、姿を消したとされる、美しい姫神様であるようです

神々の名前は、その時、その場における、神の様々なお働きを表すものであり、

源をたどっていけば、同じ神様に行き着き、ビックリ？だったりします^^

自身の産土神社にも川上御前が祀られていて、その碑にこう記されています



川上御前の由緒

「抑、本社は靈龜三年、越の泰澄大師の開基給ひし白山大権現の末社にして、
天徳の頃、川上御前を安置ありしが、後故ありて其像を平泉寺へ納めたり。」と伝う

爾来、平泉寺においては、秘宝として、三十三年毎の御開帳以外に、

尊像を拝する事は許されず——

33年に一度しか会う事の出来ない、秘められし、故郷の姫神。。。ドキドキします♡

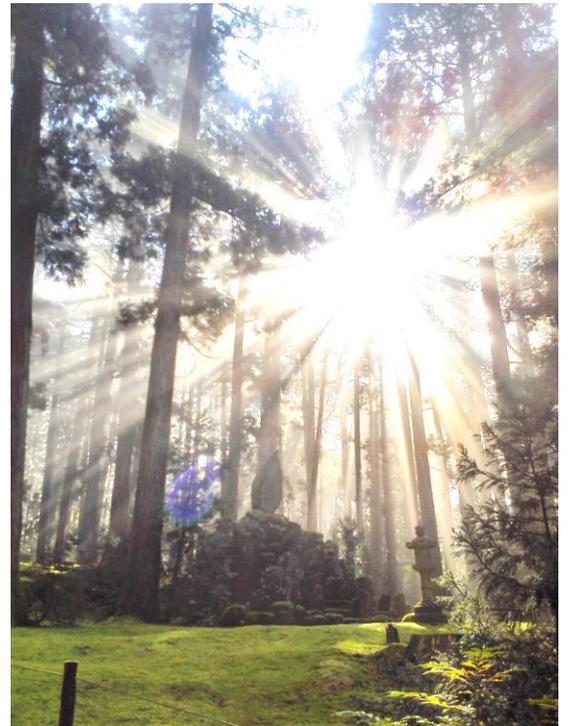
2011年11月12日に初めて、川上御前の事は全く頭にないまま、

平泉寺白山神社を訪れました

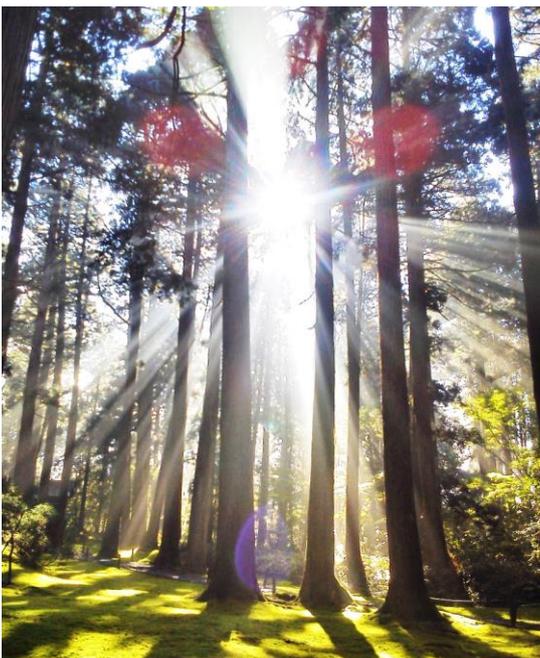
一点の曇りもないクリスタルの大地に、光が満ち満ちていて、びっくり?!
何かが、今この時の為に、完璧に準備されていた?かのような、意味不明の胸の高鳴り、
感動を覚え、喜びと希望で、足が大地から浮き上がって感じられるほどでした
川上御前のお導きかもしれません^^
思わず「キャー！」と叫んでしまった程、これまで見たこともない、美しすぎる光の光景で
夢の中?と、何度も目をこすってみた私ですが、たしかな現実、この地上なのです
私達の前に開かれている、実現可能な未来の地球です！



息をのむ神聖さ ——



頭に突き刺さる(笑)のでは?!と思う程の、鮮烈な光の柱



白山大神が現れたという
∞の光の宝石箱のような、美しい“御手洗池”



2017年1月11日 白山比咩神社創祀の地(石川県)を、初めて訪れました



私が感じるのは、
ただ、真っ直ぐに、凜とたつ、白山の女神(菊理姫)の姿です

始まりへの回帰

∞の光の中心

そのような言葉が浮かんできます

一番古くて、一番新しい白山さんと共に、これからも生きていきたいと思えます！

∞の感謝をこめて

(*^^*)

2017.1.15